

「新生ワイズ起こし運動」活動報告書

2019年8月22日

会議名	第3回 中部ワイズ起こし運動実行委員会 議事録		
主催者	名古屋クラブ 名古屋東海クラブ 名古屋南山クラブ 名古屋グランパスクラブ	報告者	柴田洋治郎 (名古屋東海クラブ)
日時	2019年7月10日 (水) 19時30分～20時30分		
場所	南山YMCA		
出席者名	名古屋C：平野実郎 名古屋東海C：山村喜久 長谷川和宏 柴田洋治郎 浅野麻琴 名古屋南山C：小林滋記 都築正和 名古屋グランパスC：荒川恭次 服部庄三 計9名 (参加者が多い場合は、部長・事業主任・会長・主査など役職者名と他何名でも可)		

会議の内容 (会議の形態、賛成・反対意見、それぞれの理由なども)

- ・2019-20年度の新生ワイズ起こし運動の中部実働チームの各委員は下記の通りとする。
当運動は継続性を重んじる方針から、各委員とも原則前期からの留任とする。

[委員の内訳]

1. 金沢クラブ・山内ミハル(副委員長・北陸地区担当) 2. 名古屋クラブ・谷川修(副委員長・名古屋地区担当) 3. 名古屋東海クラブ・柴田洋治郎(委員長) 4. 津クラブ・薦田正男(副委員長・三重地区担当) 5. 名古屋グランパスクラブ・荒川恭次(ワイズ将来構想特別委員)

- ・名古屋地区の開催場所、日時は「名古屋地区ワイズ連絡会」の中で開催することとし、三重地区、北陸地区においても適宜協議の上開催することとする、中部合同の委員会も評議会開催時等を活用して開催することとする。

- ・西日本区発足25周年に向けて、会員数を2022年に2022名を目指すことを各会員に周知し、特別委員会が作成した「西日本区の発展を希求するビジョンと基本計画」の内容を十分理解し行動する事を勧奨する。

- ・四日市、金沢犀川の2クラブ解散という残念な結果をみたが、一方でとやまクラブ発足という光明も見えたので、中部を前進させる良い励みとなった。

今後の取組み等決定事項 (保留事項や今後の課題、継続検討事項なども)

- ・小規模クラブの運営安定化のため、中部の全クラブで協力体制を整える。
- ・高齢化は所与のものであるが、会員増強の際は特に若年、中年層の発掘に注力すると共に、会員のドロップ防止に極力神経を注ぎ、クラブの新陳代謝を図ることが必要。
- ・永年の課題である、名古屋、三重、北陸間の距離的乖離による困難を解消するため、当面IT等を活用して、コミュニケーションギャップを埋める努力をする。
- ・引き続き、部会のホストクラブ、部長の負担軽減のため、部全体で知恵を出し合う事が必要。

備考 (「新生ワイズ起こし運動」)のイメージ図、DVD活用状況など)

--

報告者コメント

- ・2018-19年度の西日本区大会におけるクラブ表彰において中部各クラブは相応の成果を収めた。主たるものは、**奈良伝賞** 西村清ワイズ (名古屋クラブ)、**理事表彰** 西日本区優秀クラブ賞 金沢クラブ、**EMC事業表彰** EMC事業最優秀クラブ賞 名古屋東海クラブ、EMCパートナーズ賞 名古屋東海クラブ 池野輝昭ワイズ、新クラブチャーター賞 金沢クラブ、**国際・交流事業表彰** 交流促進優秀賞 名古屋クラブ

上記以外にも中部各クラブの表彰は多数あり、西日本区内での中部の表彰比率は上位であった。これは中部の活動が評価され、西日本区内でも誇れるものと思われる。